



第368号  
発行所  
文通村事務局  
編集 広報部  
千葉県成田市

# 心をほどく手紙 ありのままに

## 引き出しの中から

机の引き出しの奥の方から出てきた一通の手紙。それはもう随分と前にかつての上司からもらった唯一の手紙でした。

いつも何でも簡潔に、必要な内容だけをメールで伝えてくるのがほとんど。彼の彼が手書きで、しかもちゃんとした文章を書いてくれたのはその時が初めてでした。異動で離れることになったため、今までの感謝を、という気持ちで書いてくれたそうです。が、かしまった

手紙を書くような人ではなかった。驚いたものです。普段は彼の書いたメモの「解読」に周りの数人の協力が必要なこともあるほどの速筆も、その時だけはちゃんと読めるはつきりとした字。決して綺麗な字とはいえないけれど、本当に丁寧に書いてくれたんだとわかるその文字のひとつひとつには、心を打たれるものがありました。

思えば子どもの頃、読書感想文が苦手。何をどう伝えればいいのか、どんなことを書けばいいのかをわからずに悩んで、文章を書くこと自体避けていたのですが、大事なことは字の綺麗さや文章の上手さではないのだと改めて思わせてもらった手紙でした。



心を含めた文章というのは不思議と伝わるもの。人に上手と言われる字でなくても、できるだけ綺麗に書こうとしてくれたんだという気持ちは自分が思っている以上に相手に伝わるものなのかもしれません。

彼にその話をする。「恥ずかしいからもう捨ててくれよ」と言われましたが、何かの折に出てきて読み返せるのも手紙のいいところ。相手のこめてくれた心までも保存してくれているような気がして、時折引き出しの奥から引っぱり出すのが楽しみだったりします。

お互いに気恥ずかしく笑い合う。そんな思い出も引っぱり出して。皆さんのお声をウェブ上で掲載させていただきます。方法は事務局宛てのメモや便せん、何でも有り難いです。頂いたメッセージは個人情報保護を伏せた上でご紹介させていただきます。ご要望等もお気軽にお送りください。

## 静かな闘い

日々の中で、誰もがそれぞれの小さな戦いを抱えている。仕事や家族の悩み、人間関係の葛藤、自分にはわからない孤独感との静かな格闘。それらを胸にしまい、今日も変わらぬ笑顔で過ごす人々の姿を思うと、胸の奥に小さな波が広がっていく。本当は、少し見せたっていいのだ。疲れた

抜けるかもしれない。完璧じゃない日々を隠そうとせず、ありのままを少しづつ差し出しあえたら、

きっと世界はもつとやわらかくなる。きつと、誰かの涙にも、自分の涙にも、そつと寄り添えるようになる。少しづつほどけた心は、やがて柔らかな風を受けるように、静かに、でも確かに動き出す。そんなふうには、少し力を抜いた先に、また自然な笑顔が生まれ、ていくのだろう。

## 風に揺られて誰かに届け 風船便

風船便はいつでも誰でも参加できますが、その受取は新規の方へ優先されます。送り方は簡単♪下の風船便切手宛に「風船便を受け取った方へ」と書いて、差出人名を書くだけです。事務信同の返封下流で宛封まで交り局用封下交り



## 次回発送日

5月の次回発送日は19日と6月2日の予定です。送りたいお手紙がある場合は16日または30日までに事務局に到着することを、お近くの郵便局で確認の上、ポストに投入して下さい。

## 感想・体験談

皆さんのお声をウェブ上で掲載させていただきます。方法は事務局宛てのメモや便せん、何でも有り難いです。頂いたメッセージは個人情報保護を伏せた上でご紹介させていただきます。ご要望等もお気軽にお送りください。

